

# idea

ニュースレター「アイデア」

2024.12

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | レクリエーション介護士(1級) 菅原舞さん(前編)
- 3 | 団体紹介 | サンイチ三味線
- 5 | 地域紹介 | 神平自治会(川崎)
- 7 | 企業紹介 | 東山印刷(東山)
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴53 昔の良さって何を指す?
- 9 | センターの自由研究 | くらし調査ファイルNo.28 「メダカ」

### 今月の表紙

日本に古くから存在する野生のメダカは「キタノメダカ」と「ミナミメダカ」の2種類。どちらも似ている姿をしていますが、「キタノメダカ」の体は黒褐色で、「ミナミメダカ」は背びれの切れ込みが深くなっています。表紙の写真は、当地域に分布している「ミナミメダカ」ですが、近年、野生ではほとんど見かけなくなりました。その原因とは？(自由研究)

idea

発行 いちのせき市民活動センター  
せまやサテライト 〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415  
〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

ホームページ: <https://www.center-i.org/> メール: [center-i@tempo.onn.ne.jp](mailto:center-i@tempo.onn.ne.jp)

## お知らせ

### 情報

#### 「サンイチ三味線」出演依頼承ります

本誌「団体紹介」で紹介した「サンイチ三味線」では、息の合った「すこっぶ三味線」のパフォーマンスとこぶしの利いた美声を地元の行事で披露するほか、市民センターやサロン、高齢者福祉施設、学校などのイベントで出演依頼があれば承っています。詳しくは下記まで。

出演内容: 「すこっぶ三味線」の披露  
※現在披露可能な演目数は約10曲  
問合せ: 090-7525-7634  
(代表・菅原)

### イベント

#### 「ドラゴンレール沿線ウォーク」参加者募集中

「いちのせき歩こう会」では、2025年7月に開通100年を迎えるドラゴンレール(JR大船渡線)が地域の足として重要な役割を持っているということを再確認しようと、今年度4回目となるイベントを下記日程で開催(一関市の「地域おこし事業」の一環)。今回は摺沢駅を出発し、千厩駅までウォーキングします。詳しくは下記まで。※JR大船渡線の活用促進のため、参加者は集合または帰宅時に同線の利用が原則。

開催日: 2024年12月14日(土)  
集合場所: 摺沢駅/11時30分集合  
参加料: 300円(列車運賃は別途)  
申込締切: 12月11日(水)  
※締切後でも参加希望の相談可  
問合せ: 090-2603-3381  
(副会長・伊藤)

### イベント

#### G・B Pop Jazz オーケストラ「第5回クリスマスコンサート」

市内を中心に活動する市民ビッグイベント「G・B Pop Jazzオーケストラ」は、一足早いクリスマスコンサートを開催します。定番のクリスマスソングとジャズ曲のほか、誰もが聞いたことのある劇中伴奏音楽で会場を盛り上げます。詳しくは下記まで。

開催日時: 2024年12月14日(土) 15時~16時頃  
場所: イオンスーパーセンター一関店 フードコート内特設会場 (一関市孤禅寺石ノ瀬11-1)  
料金: 観覧無料(自由観覧)  
問合せ: 090-7072-3855  
(事務局・佐藤)

### 募集

#### 「千厩ボクシング教室」受講者募集中

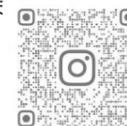
岩手県ボクシング連盟に加入しているボクシング経験者らを中心に開講している「千厩ボクシング教室」では、受講者を募集しています。同教室は小学生までが対象の「キッズ」、中学生以上が対象の「ミッドボクササイズ」「実践」のコースを設け、道具の貸出も行っています。受講者の年齢、性別、居住地等は不問です。未経験でも指導者が丁寧に教えるので気軽に参加できます。詳しくは下記まで。

活動日時: 金曜日(隔週) 19時~20時30分  
※活動日時は変更になる場合があります。  
場所: 千厩武道館 (一関市千厩町千厩館山50)  
受講料: 500円/回(保険料別途)  
問合せ: 090-4555-3212(加藤)

### 情報

#### いちサポ Instagramアカウント開設

働くことに悩みを抱えている15歳~49歳までを対象に就労支援を行っている「いちのせき若者サポートステーション(通称: いちサポ)」が9月にInstagramのアカウントを開設しました。同アカウントでは、いちサポカレンダーや支援プログラムの案内、いちサポ通信などを発信していきます。詳しくは下記まで。



Instagramユーザーネーム: @ichi.sapo  
問合せ: 0191-48-4467  
(いちのせき若者サポートステーション)  
※受付時間は平日9時30分~16時

### 情報

#### 市内の市民活動団体を探せます!

いちのせき市民活動センターが運用するホームページの「市民活動団体を探す」ページが新しくなりました。これまでと同じく、一関市内のNPO法人・非営利法人・市民活動団体の団体の情報を確認できるページを今回新たに各団体を「NPO法で定められた20分野」に分類し、どの団体がどのような活動を中心としているのか、より確認しやすくなりました。ぜひご利用ください。



URL: <https://www.center-i.org/>  
※「いちのせき市民活動センター」で検索しても上位に出てきます。  
問合せ: 0191-26-6400  
(いちのせき市民活動センター)

### まちの写真展 スタッフがまちの1コマを切り取ります。

#### 作品名 「曾慶でギャル発見!」



大東町曾慶地区の花壇脇で遭遇! ランニング中の彼女に声をかけましたが無反応: なんともなキンドでした。これは、曾慶第13区自治会の花壇に住民が設置したもので、住民曰く「地域を盛り上げたい」との思いから、5年前から道行く人の目を楽ませています。



旧町村別の人口動態等を共有します。

2024年11月1日付  
(2024年10月31日現在  
住民基本台帳より)  
※外国人登録者含む

一関市全体 前月比

人口	105831	-116
世帯数	46321	7
出生数	34	-11

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	53305	-22	24632	23
花泉	11629	-10	4663	-5
川崎	3147	-7	1261	-2
千厩	9503	-1	4077	0
大東	11436	-33	4835	-4
東山	5690	-15	2268	-1
室根	4233	-18	1795	-3
藤沢	6888	-10	2790	-1



# 団体紹介

**サンイチ三味線**  
平成28年、藤沢町31区自治会女性部15人で結成。新型コロナウイルス感染が5類感染症移行となり、イベント等に呼ばれる機会が増えたが、高齢化などを理由に9名が引退。現在は6名で活動中。

TEL：090-7525-7634(代表：菅原)

写真：取材時に撮影した集合写真(令和6年9月)



## 笑顔に支えられ、笑顔でお返し

はじまりは1曲から

「サンイチ三味線」の発足は、「平成28年度JA農業祭(芸能発表会)」の出し物を藤沢町31区自治会内で話し合う中で、「すこつが三味線をやってる人が地域にいるし、自分たちもやってみよう」と意見が出たのがきっかけでした。「すこつが三味線」とは、スコップを三味線に、栓抜きをバチに見立てて「津軽三味線」を真似て演奏するもので、同自治会の名称である「31区」から取って命名し「サンイチ三味線」としての活動をスタート。

まずは道具を揃えるところからで、始めは藤沢商工会議所からスコップを借用したり、栓抜きの代用でコテを使ったり、閉校した岩手県立藤沢高等学校のよさこい衣装の背中に「サンイチ」とシールを貼って本番衣装にしたり……。自分たちができる最大限の工夫を凝らし準備、見よう見真似で練習を重ねてきました。ついに迎えた

## サンイチ三味線

農業祭本番では、当時女性がステージに立つということが少ない中で、会場を大いに沸かせることに成功。このことが呼び水となり、各種団体の新年会などに依頼されることが増えていきました。

同会代表の菅原伸子さんは、「発足時、披露できる曲が1曲しかなかったんです」と懐かしみつつ、「最近ではレパートリーが増えたので、場所や季節に合わせて選曲したり、ダンスや衣装もそれに合わせたりして他のイベントと同じにならないようにしてるんですよ」とこだわりを見せます。

ただ「がむしゃら」に!

イベント等で披露する機会が増えると、それを見た人たちから「ぜひうちにも」と依頼が続き、多い時で年間70件、月に5〜6回、1日に3か所も周って披露したことも。日中の仕事が終わったメンバーは自治会館に集まり、栓抜きが折れてしまうほど何度もスコップ

に叩きつけ、毎週のように腕に磨きをかけていました。「色んな大会やイベントで他団体のパフォーマンスを観察することも心がけています。いかに演奏しやすく・動きやすくするかなどの工夫も大事で、良い点は積極的に取り入れました」と続け、時にストイック、時に笑いありで練習に励んできました。

平成29年、結成2年目に初めて挑戦した「第4回すこつが三味線県大会(以下、県大会)」では、団体の部で3位と惜しくも優勝を逃す結果となりましたが、翌年の県大会では、見事優勝を収めます。この時に授与されたのは、トロフィーではなく、浄法寺漆塗のスコップ!!現在も自治会館に大切に飾られ、自治会の自慢となっています。

「忙しい日々だったけれど、つらいとか、大変だとは思わなかった。せつかく「サンイチ三味線」に依頼してくださったのだから、断るようなことはしたくない」と、メンバーは思いをひとつにして、ただがむしゃらに練習に励み続けてきました。

### 輝き続けることで、感謝を伝えたい

イベントだけでなく、介護施設訪問

の依頼も引き受けている同会。「メンバーのみんな、気分は『スター』なんだよね」と頷き合い、「私たちが演奏すると、施設のみなさん、本当に喜んでくれて、キラキラした目で『握手してください』って言ってくれます。握手するためにスコップ持ってステージを降りると、驚いた顔で『それスコップですか?』って、私たちが本物みたいにするから、聞かれたりして。だから、『楽器ががす』と冗談混じりに答える。そうすると、『はあ、楽器なの?』って、笑顔になるんです」と、定番のやり取りも楽しみのひとつにしており、「また来てほしいね」と声をかけてもらえることが、何より嬉しく感じるのだそう。

休日にかを空ける事が増え、家族からは「また出かけるのか?」と言われることもありました。それでも、自分たちの演奏を楽しみにしてくれる人たちのため切磋琢磨し、「第11回津軽すこつが三味線世界大会」に初出場した際には、団体の部3位と好成績を残しました。「この大会、地域の人たちがマイクロバスを貸し切って、応援に駆けつけてくれたんです。自作した横断幕を持つみんなの姿を見つけたとき、嬉しくて嬉しくて……」と回想する、同会のみなさん。今後の活動について

## Q.あなたにとって同会の存在は?

代表



A. 若さを保つ秘訣!!

すがわら なかこ  
**菅原 伸子さん**

活動当初は代表を設けていませんでしたが、依頼が増えた事で代表を務める事に。このメンバーだからこそ継続できる!

### サンイチ三味線のアイドル



A. 地域の輪

芸名  
**キャサリンさん**

初ステージでカツラを被った事から始まり、ファンも多数。歌やダンスのパフォーマンスでみんなに笑顔届けたい!

同うと、「ステージに立ち続けたいです。『腰』が続く限り!」と、ユーモアのあるお返事が。

お客さんを楽しませて、自分たちも元気をもらおう、そんな幸せの連鎖をこれからも繋げていきます。

### - Photo

### gallery -



**自治会館での練習**  
会場の広さなどを考慮して都度振り付けを考えます。メンバーみんな動きの確認を欠かさず、本番まで全力です。



**初代と2代目スコップ**  
左が初代のスコップで、現在(右)より小さめ。演奏のしやすさを考えて今の大きさと作り、装飾も凝って目立たせています。



室根町矢越で開催された「森は海の恋人 植樹祭(令和6年6月)」での様子。キャサリンの歌声が会場に響き渡る!



**歴代の栓抜き**  
右から古い順に、バチに見立てた栓抜き。長く使用すると叩くところが削られてきたり、時には折れてしまうことも。

パフォーマンスで魅了

# 地域紹介

## 神平自治会(川崎)

門崎地区に位置し、官紅の一部を含む。45世帯、119人が暮らす。6班体制。総務部、産業部、地域振興部、体育厚生部、女性部、社会環境部、高齢部で構成。



左の写真：令和6年度「案山子づくり」の様子

組みづくり、2回目は花壇の草取り作業の際に案山子の肉づけ、3回目は花壇の花植え作業の際に案山子に服を着せ、設置しました。住民が持ち寄った服を用いてみんなでコーディネートしたため、案山子それぞれに個性があり、完成した13体の案山子は花壇に賑やかさを添えました。この「案山子大会」は、自治会内の話題になると共に、他の地域の人たちからも声をかけられ、自治会内外の交流を促すきっかけとなっています。

なお、花壇の図面作成から維持管理は「ほがらか会(老人クラブ)」が行い、定植作業などは自治会全体に声をかけ、ほぼ全戸が参加しています。

また、毎年開催する研修旅行では、目的地での研修はもちろん、休憩で立ち寄る道の駅などでも、その土地の地場産品をみんなで研究します。作り方の性質、肥料など、行った先々で勉強し、バスの中で共有し合うのだから、藤江さんは「そうした知識が地域に還元されることが大切であり、何歳になっても学習したことを発表する人の笑顔はすばらしい」と、その意義を語ります。コロナ禍で休止していた時期もありましたが、令和4年度から再開し、今後も継続が望まれる、同自治会には欠かせない事業(機会)です。

# 「学び」と「交流」を大切に

## 川と共生し、育まれた助け合いの精神

古くから砂鉄川・北上川・千厩川の合流地点として度重なる水害に悩まされてきた一関市川崎町では、抜本的な治水対策を講じるため、平成11年度より、東北地方整備局・岩手県・自治体(当時の川崎村・東山町)が連携し、上下流一貫した砂鉄川緊急治水対策事業が行われ、直轄区間が平成17年度において概成しています。

砂鉄川と北上川の合流地点に位置し、水害常襲地帯だった神平自治会もこの区間に含まれており、治水事業によって風景が一変しました。田んぼの一部が堤防になったことで、ウナギやカニ、アユをとるなど、身近な存在だった砂鉄川が同自治会からは見えなくなりしました。「とりわけ周辺集落の中でも低い地域に位置していたため、影響は大きかった」と、同自治会長の藤江修さんは当時を振り返ります。住民の瀧澤政司さんも、「被害が年5〜6回あった時は大

# 神平自治会

## 川崎

変だった。各家には舟があり、舟で避難したり、門崎駅まで舟で通学し、生活をしていた」と当時の大変さを語りつつ「洪水後は土地が肥えるというメリットもあった」と、水害と共生してきた過去に思いを馳せます。

## 学びと交流を生み出す事業

災害の多さゆえ、隣近所との連携は今も密に行っているという同自治会。令和6年に初開催した「案山子大会」もその一つで、地域住民総出で取り組み、自治会館前の花壇に手作りの案山子を設置しました。

案山子づくりは花壇の整備と併せ、3回に分けて製作。1回目は花壇の土づくりの際に案山子の骨

## 次の一歩を踏み出すために

人口119人のうち、中学生以下の人口が14人と、門崎地区の中でも子ども割合が多い同自治会ですが、約15年程前から夏祭りなどの事業は参加者の減少により休止。現在は自治会員が無理なく参加できる事業が中心です。

例えば12月に行う門松作り。令和3年から始めた事業で、自治会館前に設置する門松を子どもたちと一緒に製作します。かつて門崎地区で作られていたという門松を調べ、世嬉の一酒造の門松も参考にしながら、より地域文化に近い形式を再現しています。

自治会事業の規模は縮小していても、案山子大会や門松作り等、「毎年何かをしていくという機運はある」という同自治会では、かつて行っていた交流事業(果報団子づくり等)などを再開していく予定です。

「やるとなると行動が早いのが神平自治会です」と語る藤江さん。今年度から新たに設置した「高齢部」もその成果です。定年年齢の引き上げにより、地域活動への参加者が減る中、自治会のさらなる活性化を図るため、60歳を過ぎたら自治会活動に参加するという

流れを作り出しました。「住んでいる人が元気になるような地域になるように頑張りたい」と、子どもたちや元気な女性陣、ほがらか会や高齢部など、地域の方々な主体が活躍できる地域運営を目指しています。

## Q.集落の自慢は何ですか？

### 自治会長



A. 支え合い 助け合い

ふじえ おさむ  
藤江 修さん

2期4年目。自治会副会長、産業部長を経て自治会長に。住み良い地域を目指し、活動を模索しています。

### 副会長



A. 協力的な自治会です

おやま はしめ  
小山 元さん

2期4年目。総務部長を兼務。自治会の行事の取りまとめ、老人クラブの事務局も担っています。

## - Photo



初年度は竹を使用した一般的な門松を製作しましたが、当地域の門松文化を調べ、今の形式となりました。

## 世代間交流で門松作り



治水対策事業により、平成17年頃から風景が大きく変わった集落では、水害の歴史や文化を後世に語り継いでいきます。

## 堤防から望む神平集落

## gallery -



川崎から東山に向かう道路沿いから見える同自治会館前には案山子づくりの風景が広がっています。

## 案山子づくり



洪水時に活躍した舟。ほぼ使われることがなく、集落内の各家でもこの様子を見ることが出来ます。

## 自治会館の横には……

## 東山 東山印刷

昭和後期頃から東山町内で事務所を構える東山印刷。平成14年の台風6号による洪水で大規模な被害を受け、以後、現住所に事務所兼工場を移転。東山町唯一の印刷会社で、名刺をはじめとするカードサイズの印刷から、企業等で使用する複写伝票・領収書等、地域内での各種イベントチラシ・パンフレットなど、用途に応じてさまざまな印刷物を制作。東山地域で約800年受け継がれる伝統の手漉き和紙「東山和紙」の使用や、町内のイラストレーター(戸田さちえ氏)とコラボした年賀状も印刷するなど地域オリジナルにも挑戦し、夫婦二人三脚でデザインから製版・印刷・仕上げまで、一連の工程を行う。

## 地域密着型の印刷会社として「思い」を「形」に

現代表・佐藤己義さんの前職は、「協同組合産直センターひがしやま季節館(以下、東山産直)」の店長でした。東山産直のチラシやパッケージなど、印刷を依頼する側として以前から同社とは関わりがあり、先代に後継者がいなかったことから、「継いでもらえないか」と声をかけられた佐藤さん。もともと、機械操作やデザインも得意ではありませんが、これまで印刷業とは全く異なる業種で働いていたため迷っていたところ、先代が急逝。「町に一つかない印刷屋だから、誰かが継がなければ困る」という周りの声もあり、平成18年、同社を継承することになったのです。

「年賀状の時期になると本当に忙しくてね……」と継いだ当時を振り返る佐藤さん。先代から受け継いだ顧客からの依頼に応えるべく、誰も頼れる人がいない中、印刷機械の修理・メンテナンス・チラシ等のデザインまで独学で身につけました。

多種多様な依頼をこなしていく中で佐藤さんが感じたのは、「印刷業界は時代とともに目まぐるしく変化していく業種」ということでした。

地域の印刷業を存続させるために

「東山町は、企業が多いんです。当初は、複写伝票や領収書等の受注が主力でしたが、国全体としてテレワークの拡大や働き方改革などによるペーパーレス化、令和2年頃から急速に進んだ印刷廃止の取り組みもあり、今まで紙で印刷されていた伝票類に関しては電子データとしての扱いも多くなりました。これは町内企業も同様で、企業の大規模印刷受注は激減していますね」と、業界の厳しい現実に直面しています。

### 地元へ寄り添う「印刷屋さん」

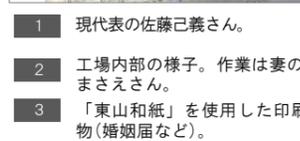
市内の印刷会社では珍しく「和紙」を使用した印刷物を取り扱う同社。先代(約30年前)から町内の小・中学校の卒業証書を「東山和紙」で制作しており、その後、試行錯誤の上「東山和紙を使用した名刺」が誕生すると、「どこか懐かしさ、素朴であたたかい」と評判になり、県内外から注文が入り、同社の主力商品

となっています。

「印刷物の依頼はホームページ上よりも持ち込みの方が多くです。時には3行くらいの概要だけ書かれた紙を見せられて『これをチラシにして』と依頼されることもありません」と苦笑いする佐藤さん。「対面で依頼を受けることが多いので、お話ししながら地域の人たちの思いを汲み取り、形にしていきたいことを大切にしています」と続けます。

同社は印刷だけではなく、パソコントラブルの相談で来所する方にも極力対応しており、地元の駆け込み寺のような存在にもなっているそう。「昔はこの印刷会社も地域密着型でした。今でもうちが地元の印刷物を手掛けられているのは、地元のみならずと築いてきた信頼関係があるからだと思えます。ネット注文印刷にはない強みですね」と佐藤さん。

地元の人を思い浮かべながらつくる唯一無二の印刷物が、これからも温もりを届けます。



1 現代表の佐藤己義さん。  
2 工場内部の様子。作業は妻のまさえさん。  
3 「東山和紙」を使用した印刷物(婚姻届など)。

DATA  
〒029-0302  
一関市東山町長坂字南山谷89  
TEL 0191-47-3551  
FAX 0191-47-3220  
HP <https://den-syo.com/gaiyou/>

### 今月のテーマ

地域運営の落とし穴 53  
昔の良さって何を指す?



第69話

### 「良さ」を引き継ぐために

「昔は良かったね」と比較できるのは昔を知っている人だけであって、若者や子どもたちにとっては今がスタンダードですから、「昔の良さ」をただ押し付けても仕方がない話。むしろ大事なのは、今を生きるにあたり、「昔は『何が』良かったのか?」を分析し、「その良さを今に活かせるなら、どうするのか?」を考える視点も必要でしょう。

見方を変えると「昔の良さ」というのは「慣れ親しみ」を指し、現在普及しているモノや考え方に使いにくさや馴染みのなさを感じ、否定的になってしまうのではないのでしょうか? 同じように、今の人たちに昔の良さを伝えたとしても、使いにくさや馴染みのなさから「今の方が良い」と感じると思うのです。

携帯電話が無かった時代に比べると、ある方が便利であり、「昔の方が良かった」と思う人はそれほどいないはず。インターネットが普及し、スマートフォンを使えば手元でインターネット検索ができるため、ふと気になった言葉や地図など一台の端末だけで事が足りるのは、非常に便利です。

人によっては、「駅にあった黒板の伝言板がよかった」という意見もあり、それが復活している所もありますが、これは「不便であるがゆえに新鮮さを感じる」点が話題になっているのであって、実際はコミュニケーションツールとしては効率が悪く、情報漏洩などのリスクが目立ってしまいますよね。相合傘などがたくさん書いてあったのは懐かしいのですが……(笑)

さて、前置きが長くなりましたが、「町内会の在り方についての住民座談会」を開催することになり、支援に入ったときのエピソードをお話します。

コロナ禍で町内会活動も思うようにできず、町内会費の徴収などに不満をもつ住民の存在から「町内会不要論」も飛び出すようになり、住民座談会3回目のテーマで「町内会が無かったら?」という話し合いをしました。「子供会育成会でやっている廃品回収は、町内会が無くてもできるもの?」という質問に、現役世代は「できる」と回答しながらも今の運営方法を話します。そこに、かつての現役世代が、「私たちの頃、廃品回収は、子どもたちが訪問することで住民と顔を合わせる機会にしていたのよ」と伝えました。

今の廃品回収は「効率重視」と「資金獲得」がメインになっているため、子どもたちが住民と顔を合わせる機会がなく、廃品回収のそもそもの目的を知った現役世代からは、感嘆の声が。さらに、「かつては子供神輿をしていて、そのご祝儀のほうがよく稼げた」という話題も。しばらく子供神輿も中止になっていたことから、神輿があることすら忘れられており、今でも倉庫に大切に保管されていることを知る場面でした。

廃品回収という事業の引き継ぎはされてきたけど、目的の引き継ぎがされてこなかった現実を受け止めながら、そもそもの目的を知った現役世代は感動している様子でした。今の時代に出てくる負担感は、業務を受けることが負担になっていて、住民の関係構築、すなわち住民みんなで支えあうという目的を喪失した結果の不満になっているのです。

当初は、目的と手段が引き継がれていたのですが、一度、曲がって伝わってしまうと、曲がったままがスタンダードになり、修正されずに引き継がれてしまいます。そこが「地域運営の落とし穴」です。

昔は良かった……それは、目的に対して「手段の合意」と「参加・協力」があったことなのでしょう。

時代と技術は進んでおり、現代においても昔と変わらず「いいね」となるよう、上手に「良さ」の引き継ぎをしていきたいですね。



木六自治会(千厩町)では資源回収ステーションを設置し、各組(班)の当番制で公園の管理や資源回収事業を運営。資金獲得だけでなく、集落内の環境改善にも役立てており、自分たちで住む場所を管理する「支え合い」を大事にしています。

ミッション 91

くらし調査 ファイルNo.28

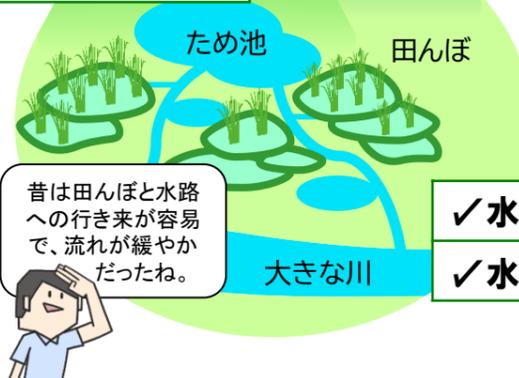
「メダカ」

「メダカ」が棲みやすい環境

ヒアリング調査の情報からメダカが目撃された場所の現地調査を行ったものの、残念ながらメダカの発見には至りませんでした。それでは、メダカが棲みやすい環境とは具体的にどのような場所なのでしょう？



昔(整備前)の田んぼがメダカにとって理想的な棲み処



昔は田んぼと水路への行き来が容易で、流れが緩やかだったね。

「メダカ」という名前は「目が高い位置にある事」から由来し、水面に落ちてくる虫や、浮いているボウフラを探して捕食しています。

水温が高い場所を好むため、水深が浅く水が温まりやすい田んぼで生育しやすいと言われており、夏場の水温が30度近くなる田んぼは他の魚にとって生活できない環境となりますが、メダカにとっては天敵も少なく快適に過ごせる場所となります。季節によって生活する場所が変化し、寒い時期には水深の深い場所で過ごすのが特徴です。

メダカが棲みやすい条件は？

✓水温が高い	✓田んぼへ繋がる	✓流れが速くない
✓水草がある	✓天敵が少ない	

メダカが棲みやすい条件は？

外来種の存在がメダカの数減らす原因にもなっています。外来種に捕食されてしまうことだけでなく、外来種が「生育環境を変化させてしまう」ことによる影響が大きいです。



外来種 アメリカザリガニの場合

- ①水草を食べるため、獲物を捕まえやすくするために、水草を刈り取ってしまう。
- ②メダカやその他水生生物は水草に産卵するため、水草が無いと繁殖できなくなる。
- ③食物連鎖の循環が崩れ、水が濁って光が届かず水草が生えなくなる。
- ④アメリカザリガニしかいない環境に……。

アメリカザリガニさえ抑えれば……と考えがちですが、アメリカザリガニの天敵となる「ウシガエル」や「オオクチバス」も外来種。

その場所に生息する動植物を調査し循環図を把握することが大切で、それをしないまま外来種に対抗しようと外来種を放ってしまえば、悪循環に陥ってしまいます。



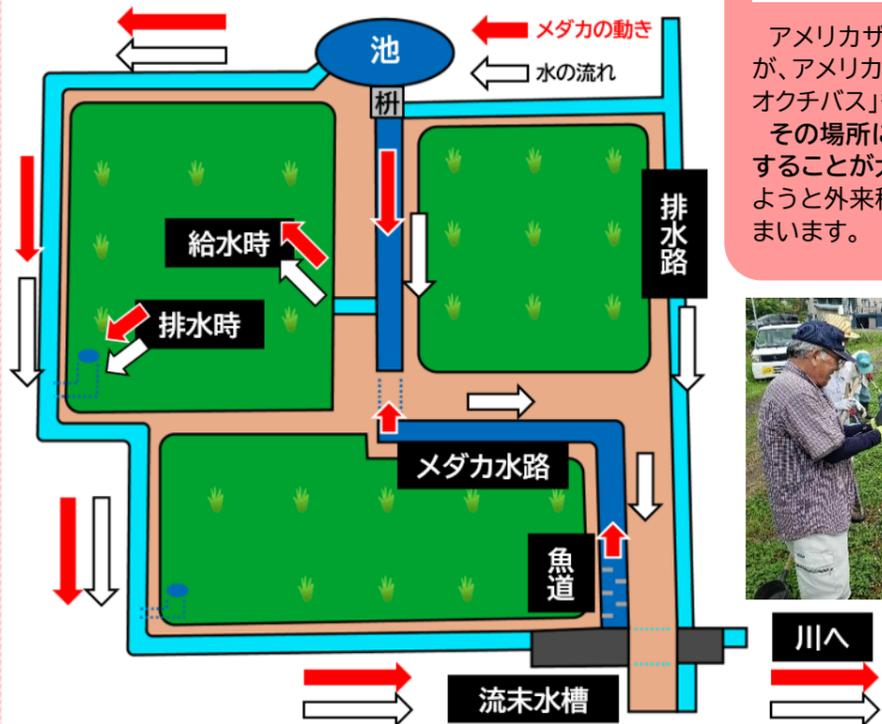
メダカ水路の泥上げ作業とアメリカザリガニの駆除を行う門崎ファームのみなさん。

メダカが棲みやすい環境を守るため取り組んでいる団体が一関にもある！

農事組合法人 門崎ファーム

同法人は一関市川崎町を拠点に、メダカやホタルが棲む豊かな環境を保全するとともに、次世代へ継承し農業の担い手育成を目指しています。

稲作を行いながら、下図のようにメダカが田んぼ→水路→田んぼへ帰る仕組みをつくり、また、越冬できる枡を整備してメダカの循環を図っています。



実際にメダカがいるか調査してみた！

8月に開催した、当センター主催「いちのせき市民フェスタ24」に参加された方へ、市内でメダカを実際に見たことがあるかどうかのヒアリング調査をしたところ、平成10年頃までは田んぼの水路などでメダカを見たことがあると答えた人が複数人いました。

しかし、今回の調査では、平成10年以降でメダカを見た方がいなかったため、実際に調査してみました！



<調査場所> 花泉町涌津にある田んぼの用水路

小雨のなか隅々まで探していき……

メダカは発見できたのか…！？

タナゴの赤ちゃんや沼エビなどは見られたもののメダカの見つけには至りませんでした。メダカは臆病で警戒心が強いので人影を見ただけでも隠れてしまいます。個体数が少ないこともあり、自然界での発見はとても難しくなっているのかもしれない……。



※ 岩手県が作成した「レッドリスト(2024年度版)」での分類。絶滅危惧が増大している種で、現在の状態をもちた圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧1類(絶滅の危機に瀕している種)」へ移行することが確実と考えられるもの。

日本のメダカ

日本には江戸時代中期以前から「メダカ」を鑑賞する文化があり、その後「金魚」の鑑賞が流行、20世紀からは「熱帯魚」が注目され、21世紀に入ると「メダカ」ブームが再来し、様々な種類のメダカが品種改良されてきました。

田んぼなどでよく見かけていた、古くから日本に生息する在来のメダカを通称「クロメダカ」と呼んでいましたが、現在では遺伝子解析が進み「キタノメダカ(主に青森県と兵庫県の日本海側に生息)」と「ミナミメダカ(主に岩手県太平洋側と兵庫県西側の日本海側に生息)」の2種類であることが分かりました。

なぜレッドリストに？

県が作成している「レッドリスト」とは、県内の野生動植物の状況に関して絶滅のおそれのある種をリスト化したもので、数が多かった種が減少した場合のみ追加されていき、もともと個体数が少ないものは対象になりません。岩手県に存在するミナミメダカは「絶滅危惧2類※」に分類され、その他の地域でも絶滅の危機に瀕している状況です。

メダカが減った原因については、「(社)久保川イーハトーブ自然再生研究所」の佐藤良平さんによると、「農業などの使用でメダカが棲める環境が無くなったという見解も

あるが、メダカの減少に農業などが直接関係しているのかどうか、明確には分かっていない」とのこと。また、「昔の田んぼは土側溝でメダカが産卵できる水草もあつたが、現在は三面張りのコンクリート側溝となつて水の流れも速くなり、メダカが水路から田んぼへ行き来ができず、繁殖が難しくなっている」という理由も考えられるそうです。近年は休耕地(休耕地)も多く田んぼが干上がっていること、農業を減らした田んぼにアメリカザリガニが増えメダカの脅威となる外来種が生活しやすい環境になつていることなど、様々な原因が重なり、メダカが減少していったと推測されます。

〈協力〉一般社団法人 久保川イーハトーブ自然再生研究所 佐藤良平さん(一関)／農事組合法人 なつかわファーム(花泉町)／NPO法人 北上川サポート協会(川崎町)／農事組合法人 門崎ファーム 藤江修さん(川崎町)／その他 市内のみなさん  
 〈参考文献〉金子美智雄(2002)『消えゆくメダカと水辺の自然』／岩手県「レッドリスト(2024年度版)について」. https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/rdb/1074861.html (2024/11/12)／環境省「何が問題なの？ 水草、全部切る!？」. https://www.env.go.jp/nature/amezari\_mon dai.html (2024/11/12)